

文化パーク城陽会館 30 周年記念事業

文化パーク城陽公募展 JOYO アートギャラリー 2025

講評

太田垣 實 (おおたがき・まこと)

記録的な猛暑、酷暑が続いた今年の夏は、制作はさぞかし大変だったと推測され作品の応募数は減るかもしれないという予測もあったが、平面・立体の応募総数は、前年を若干ながらも上回ったことはうれしいことであった。城陽のアートギャラリーは毎回、初めて出品する人の割合が高いのがひとつの特色になっているが、今年も初出品者が44%にのぼるなどこれまでと同様の傾向がみられた。20年以上続いてきた公募展にとって初出品者が多いことは、新しい作品が新鮮な風を送り込んでくれることになる。長く続いた公募展は常連組が多数をしめ、ややもすればマンネリ化や停滞感をあたえる結果にもなりがちなのだ。新しい血や空気が送り込まれることは公募展にとって活性化の効果をもたらすことにもなる。

今年に限っていえば、文化パーク城陽開館30周年記念賞（今年1回かぎり）や城陽賞（今年以降毎年）が新設されたことも、初めて出してみようかと思う人の呼び水になって昨年より若干応募が増えたことにつながったかもしれない。市長賞（最優秀賞）に選ばれた絵画「スキヤキ・ウェスタン」の小松隼人さんのような、これまで受賞歴のある実力者が初めてトップ賞の市長賞を射止めたケースもあれば、初出品で初受賞となったのは教育長賞（新人奨励賞）の森野湖春さんが横たわって眠る子供の豹（ヒョウ）を描いた日本画をはじめ、レンガ建築の建物の鉄製の窓扉の隙間から一匹の猫がみつめている絵画「あの国を思う」の松村年恒さん、さらには佳作賞に選ばれたMami Kocjančičさんと中堀香織さんの抽象構成やデザイン性を織り込んだ絵画など、従来にない絵画表現で注目、評価された。

このように出品回数を重ねた人と、初出品者とが作品の出来栄を競い合いながら、アートギャラリーの活性化効果を生み、全体のレベルを上げていくことになれば、この上ない喜びである。

(美術評論家)

受賞作品講評

●市長賞(最優秀賞) こまつ はやと 小松 隼人 「スキヤキ・ウェスタン」(絵画)

中央の人物の存在感とその他の背景の様々のモチーフは、デッサン力や構成力は優れている。また赤系の色相で纏められ、またグラフィック的な表情も取り入れられた力量も一目で感じます。日本的なイメージと西洋的なイメージの混沌とした表現に、現代の若者が生きている不安感を指し示すコンセプトも感じられ、観る側に強いインパクトを与える良い作品だと思います。(森田 康雄)

●教育長賞(新人奨励賞) もりの こはる 森野 湖春 「やすらぎ」(絵画)

豹の寝姿が画面に構成され、豹のポーズや表情とやさしい色彩の表現方法でやすらぎを感じる作品になっています。また豹の色彩と背景空間が柔らかい色調でまとめられていて、全体的に新鮮な印象で、自然な奥行きのある空間が表出されています。寝顔の表現や足の表現なども絶妙で好感の持てる作品です。(入佐 美南子)

●優秀賞 まつむら かずき 松村 一樹 「みんな鳥になって-生きのびる希望はどこにあるのか-」(彫刻彫塑)

この優秀賞の作品は化粧土を施して粘土を焼成したテラコッタ作品である。塔のような造形物に階段があって、窓があってその周りを鳥が飛んでいる。塔の上には希望を願う女神像が立っている。とても物語性があり、見るものに想像力を持たせてくれる。とても素朴で新鮮さを感じる。争いごとが多い現代だからこそ、この造形は作者の思いが伝わってくる。(谷口 淳一)

●文化パーク城陽開館 30 周年記念賞 きたむら まさひろ 北村 正博 「グラスの中に閉じ込めて」(写真)

文化パーク城陽の建物をワイングラスの中に閉じ込めた作品です。水を通したレンズ効果で圧縮され、逆さまに見える様はまさにカメラのなせる技ですね。写真ならではのアイデアとシンプルな構成が印象に残る作品です。(田中 仁)

●城陽賞 まぶち こうか 馬淵 卓華 「飛翔」(書)

堂々とした隷書作品である。しっかりとした起筆から引かれた線には精彩があり深い。特に送筆での緩みのない用筆は一貫しており、仕上がりの統一感を担保している。使用されている茶系の紙も作品の雰囲気の大いに盛り上げており効率的だった。清代の金冬心を思わせる作風も見事で本賞に値する作である。又、落款の処理もおしゃれで作品のムードをより高いものになっている。(尾西 正成)

●文化芸術協会賞 かわい のぶとし 川合 伸俊 「tentacle」(写真)

静謐で趣のある作品です。スチールライフ(静物写真)の巧みなまとめ方でモチーフの活かし方、空間バランスが絶妙です。ピクトリアリズム(絵画主義写真)を現代に再現しているようです。暗いトーンの中にも光と影を見出しており、陰翳礼讃を再現した秀作です。(田中 仁)

●京都新聞賞 松村 年恒 「あの国を思う」(絵画)

何処か外国の様な古びた建物の窓が画面一杯に描かれ印象づけられる。壊れそうな鉄製かと思われる窓の隙間からこちら側を見つめている猫の様子は、何か視線の先に物語があるかのような切り口は面白い。現実と空想への狭間のような情景へと引き込まれそうな魅力的な作品です。(森田 康雄)

●佳作 古谷 一規 「未空間・INORI」(絵画)

二体の胎児の像が空間に浮かんでいる構成で、意味深な印象の作品です。タイルの床のような空間と宇宙空間のような不思議な静寂な空間で、祈りを捧げているのでしょうか？マチエールの表現が繊細で金属的な表層にも感じられ、独特な自身の世界観が表現されていると思います。(入佐 美南子)

●佳作 安井 陽子 「春」(絵画)

いつもながらに技量が優れているのは感心する。近くで見ても細やかな調子と統一された色相は、観る側を落ち着かせてくれる感性は独自の世界感である。その中で、背景の左上の抽象的な処理は、硬くなりがちな表現を柔くさせる重要なポイントであり効果的なので、これからもこの対比を有効に取り入れられる事を期待します。(森田 康雄)

●佳作 中堀 香織 「いのちの循環」(絵画)

水面のような空間に緑の物体が浮いているのでしょうか？緑の物体は命の源なのだろうか？と想像します。奥の方に煙のようなものが立ち上がり、それが循環している構成なののでしょうか？静かな時の流れを感じ、独特な作家の思いが表現されています。

(入佐 美南子)

●佳作 Mami Kocjancic 「Unbound Layers(束縛を超える層)」(絵画)

モデリングペーストを使用したマチエールが、重厚なインパクトのある画面になっています。幾層もの円形の形がリズム感を出していて、独特な雰囲気のある作品です。また表面のチューブのような線の表現もアクセントになり、画面を効果的に演出していると思います。(入佐 美南子)

●佳作 中井 陽花 「杜審言詩」(書)

墨の迫力を効率的に使った意欲作である。一点一画をゆるがせにせず、確かな用筆で仕上がっている。力強い起筆から伸びやかに引かれた線は強靱で、墨量の豊かさと相まって深淵な味わいを与えている。又、文字の大小の工夫により、余白を美しく表現出来ており、本作の魅力となっている。文字の黒と余白の白のコントラストが見事である。(尾西 正成)

●佳作 ^{ますだ じゅんぞう そうけん うた} 増田 淳三「双弦の詩」(陶造形)

薄い粘土片を貼りつないで径 10cm ほどのパイプを作った陶芸作品である。タイトルどおり両端のパイプロがこちらに向き、そこから弦音が聞こえてきそうである。粘土片を繋いでパイプの形状を作るとは簡単なことではない。土の強度や乾燥による収縮など土の性質をよく知っての根気ある作品である。(松本 ヒデオ)

●ハイスクール賞 ^{ちよしま ちきき きょうしつ} 豊嶋 千咲季「教室」(絵画)

ある時間、この教室から醸し出される空気感は新鮮な気持ちにさせてくれます。教室の中に誰かが居るのか、それとも見えない場所に居るのかの物語を徐々に彷彿させ、とてもワクワクな気分させてくれます。柔らかな色調と単調な表現ではありますが、その事が逆に主張したい思いを適確に打ち出されていて好感の持てる作品です。

(森田 康雄)

●ハイスクール賞 ^{かない ようこ みずすだれ} 金井 瑠子「水簾」(絵画)

滝の風景ですが、流れ落ちる滝壺の映り込み、溪谷の静かな光景が繊細に表現されていて好感のもてる作品です。岩の色と木々の緑の色の対比が効果的で、近景の木の葉の表現も細かく観察して描写され、自身が捉えた風景にしっかりと取り組んだ姿勢が感じられます。

(入佐 美南子)

●ハイスクール賞 ^{あさい ひなな あくうかん} 浅井 菜々恵「亜空間」(写真)

関西万博のパビリオン？と思われる近代的な造形物を、下から見上げてリフレクションや歪みを取り込んだ作品です。イメージーションの拡がりを視覚に訴える強さがあります。イメージを創り上げていく意欲も作品に力強く現れています。(田中 仁)

●ハイスクール賞 ^{よしだ あいり ちやうなんしし} 吉田 愛梨「張南史詩」(書)

伸びやかな用筆で気分の大きな作である。清代の何紹基をヒントにした作であろうか、真面目な書への取り組みも評価出来る。ただ何紹基調だけでなく、その書法をベースに墨量や字形に自身の工夫と変化をつけて仕上げられている点は高く評価出来る。古典をベースにして自身の創作を行う姿勢は素晴らしく、この調子でこれからも書に邁進してください。(尾西 正成)

●星待ちキッチン賞 ^{やまなか よしあき よぞら みあ} 山中 良明「夜空を見上げて」(写真)

文化パーク城陽の夜景と星空の構成が見事で、ロマンチックな作品です。北極星を中心としたスローシャッターも適切で、星の軌跡がダイナミックに切り取られて迫力があります。天空と雲と地上が整った見事な星景写真です。(田中 仁)